

日本雑草学会和文誌「雑草研究」執筆要領

1. 原稿の記載順序

原稿は、1) 表題、著者名、所属機関とその住所（郵便番号および代表者の電子メールアドレスを含む）、英文表題、英文著者名、英文所属機関とその住所、2) 要約（500字以内）およびキーワード（5語程度）、欄外見出し（20字以内）、3) 本文（原則として、緒言、材料および方法、結果、考察、（謝辞）の順）、4) 引用文献、5) 英文摘要、英文キーワード（5

語程度）、6) 図表およびその説明、の順とする。ただし、短報、技術レポート、資料および総説・論説では要約・英文摘要は必要としない（「提出原稿一覧および刷り上がり頁数」参照）。なお、英文摘要については翻訳会社または英語が母国語の人の校閲を受け、その証明書を添付することが望ましい（英文校閲は受付後でかまわない）。

提出原稿一覧および刷り上がり頁数

	表題等 ¹⁾	キーワード	要約	本文	図表およびその説明	英文表題等 ¹⁾	英文キーワード	英文摘要	刷り上がり頁数 ²⁾
原著論文	○	○	○	○	○	○	○	○	6頁以内
短報	○	○	不要 ³⁾	○	○	○	○	不要 ³⁾	2頁以内
技術レポート	○	○	不要 ³⁾	○	○	○	○	不要 ³⁾	4頁以内
総説・論説	○	○	不要 ³⁾	○	○	○	○	不要 ³⁾	8頁以内
資料	○	○	不要 ³⁾	○	○	○	○	不要 ³⁾	4頁以内

- 1) 表題等、英文表題等：表題、著者名、所属機関とその住所（郵便番号および代表者の電子メールアドレスを含む）
- 2) 刷り上がり頁数：著者負担により超過頁を認める。ただし、短報では3頁を超えないこととする（受付時点で投稿用紙で本文・引用文献合わせ6ページ以内とする）。
- 3) 原著の論文以外の要約、英文摘要：要約を添付してもかまわない。ただし、英文摘要においては翻訳会社等または英語が母国語の人の英文校閲を受け、その証明書を添付することが望ましい。

2. 原稿用紙

A4判の用紙を用い、頁設定は1頁1行36字、28行（2.5頁で刷り上がり約1頁）とし、上下左右に3cm以上の余白をとる。ただし、英文摘要は1頁24行を超えないこと。和文誌 Web サイト上の投稿様式を利用してもよい。

3. 用語、数量の単位

- ・原稿は横書き口語文とする。ただし、図、表、写真については英文による記述も認めるが和英併記は認めない。術語以外はなるべく常用漢字を用い、「現代かな使い」による。
- ・作物、動植物の和名は原則としてカタカナで書く。雑草の和名、学名は原則として「日本雑草学会 Web サイト上の雑草名リスト (http://wssj.jp/academic/weed_list.php)」に従って記載する。なお、学名は表題、要約および本文において最初に記述した和名の次にかっこ書きで入れる。ただし、よく知られている種の場合には表題の学名を省略してもよい。和名のない場合は現地名と学名を使用する。
- ・除草剤の名は原則として「雑草学用語集」に従った一般名を用い、必要に応じて化学名を英語で併記する。商品名は用いない。
- ・数字は原則として算用数字を用い、半角で入力する。人名

には原則として敬称をつけない。

- ・数量の単位は SI 基本単位を原則とするが、単位、術語の略字などは次の例による。長さ：m、面積：m²、a、ha、容量：L、m³、重量：g、kg、ton(s)、時間：sec、min、hr、day(s)、week(s)、month(s)、year(s)、温度：℃、濃度：%、N、M、ppm、mg g⁻¹、電気量：V、A、W、Ω、S、放射能：dpm、cpm、Bq、Sv、圧力：Pa、mmHg、光量：μmol m⁻²s⁻¹、その他：pH、pF、Eh、rpm、J。
- ・除草剤の使用量は有効成分量で示すこととするが成分量で示すことのできないものは製品量で示してその旨を注記する。

4. 表、図、写真

図表は原稿の英文摘要頁の後に1頁1枚として貼り付ける。校閲段階では主にこのファイルを用いる。

表：Excel で作表する場合、1表ごとに1つのシートとし、1つの論文全体で1つのファイルとする。表は基本的に本文1段内（文字数にして30字）に収めることになるが、一覧表など大きくなるものについては2段組みとする（文字数にして65字）。

図：図は著者の作成原図をそのまま使用するので、図中に文字および記号を入れ1図ごとに1つのファイルに保存する。印刷時の大きさは編集委員会で決定するが、横が本文組み1段

(80mm) の範囲内で掲載することになるので、それを想定して文字などを調整して作成する(大きくなる場合、2段通し(左右160mm)で掲載する場合もある)。手書きで図のトレースを希望する場合あるいは編集委員会が専門業者によるトレースが必要と判断した場合、トレース代は著者の実費負担とする。

表および図の書き方、様式は「記載例」および最新号の会誌を参照すること。

写真: 写真は図という表現に統一する。写真は白黒写真を原則とするが、カラー写真も認める場合がある(著者の実費負担)。写真も1図ごとに1つのファイルに保存する。なお、写真の製版が必要な場合は著者の実費負担とする。校閲段階ではファイルのサイズを縮小するため、解像度を下げたファイルを用いてもよい。

表、図は1つのファイルに1つ保存する。また、表、図の挿入位置は原稿の右欄外に矢印で指定する(例: ←第1表、第1図→)。

5. 引用文献

本文中の引用文献は、著者が1人の場合は例えば、白倉(1996)、(白倉1996)、2人の場合は佐合・浅野(2008)、(佐合・浅野2008)、3人以上の場合は浅井ら(1995)、(浅井ら1995)、英文文献では上述の漢字表記の部分を英文字とする。2人の場合は著者をandで結び、3人以上の場合はAsai *et al.* (1995)、(Asai *et al.* 1995)とする。また、2つ以上同時に引用する場合は発表年次順・著者のアルファベット順に記載(浅井ら1995; 白倉1996, 1997a, b)する。

引用文献の項目では、記載順序は筆頭著者の姓のアルファベット順とする。同一筆頭著者(単独名を含む)の場合は年次順とする。同一筆頭著者で同一年次の場合は年次の後にa, bなどをつけて区別する。原著の論文以外については表題を省略してもよい。

学会講演要旨は引用文献として認めない。ただし、雑草研究52巻以前の別号(講演要旨)については、緒言などで過去の研究事例の存在を示す場合にのみ、編集委員の許可のもとに引用を認める場合がある。53巻以降の別号は引用を認めない。

DOI, ISSN および ISBN を付与されていないオンライン書誌や資料は、信頼のおける機関により公開され、その内容が十分な価値を有する場合にのみ、編集委員の許可のもとに引用できる。

(学術雑誌から引用する場合)

藤田究 1996. 水稻乳苗の生育に及ぼす数種土壌処理型除草剤の影響. 雑草研究 41, 44-54.

Powles, S.B., D.F. Loraine-Colwill, J.J. Dellow and C. Preston 1998. Evolved resistance to glyphosate in rigid ryegrass (*Lolium rigidum*) in Australia. Weed Sci. 46, 604-607.

佐合隆一・牛田勝弘・松田照男 1996. イボクサ (*Murdannia keisak* (Hassk.) Hand.-Mazz.) の発芽特性と除草剤に対する感

受性. 雑草研究 41, 344-349.

(単行本を引用する場合)

Zimdahl, L.R. 1999. Fundamentals of Weed Science. Academic Press, San Diego, pp. 41-54.

鷲谷いづみ・矢原徹一 1996. 「保全生態学入門」. 文一総合出版, 東京, pp. 15-18.

(共著の単行本の一部を引用する場合)

Marshall, G. and R.P. Finch 1997. Molecular ecology: its role in studying herbicide resistance. In "Weed and Crop Resistance to Herbicides" ed. by R. De Prado, J. Jorin and L. Garcia-Torres, Kluwer Academic Pub., Dordrecht, pp. 192-208.

森田竜義 1997. 世界に分布を広げた盗賊種セイヨウタンポポ. 山口裕文編著「雑草の自然史—たくましさを生態学—」, 北海道大学図書刊行会, 札幌, pp. 192-208.

(Web 資料を引用する場合)

中央農業総合研究センター 2011. 総合的雑草管理 (IWM) マニュアル. <http://narc.naro.affrc.go.jp/result2p/images-r2p/iwm-manu.pdf> (2011年8月12日アクセス確認)

Kendig, A. and R. Smeda 2003. Weed control guide for Missouri field crops. http://plantsci.missouri.edu/deltaweeds/pdf/mo_weed_guide_2003.pdf (2011年8月7日アクセス確認)

6. 英文摘要の表題と著者名

英文表題はゴシックで記す。原則として語頭のみ大文字とし、以降は小文字を用いる。但し、頭文字が常に大文字で記される語などは通例に従う(例: Change in weed control studies of rice paddy fields in Korea.)。また、著者名は、名 (first name) 及び姓 (family name) の語頭のみを大文字とし、名の省略形は用いない(例: Takashi Yamada)。なお、連名の際は、“and” を使用し“&” を用いない。所属を区別する際には、アスタリスク (*) を姓の右肩に付記し、番号による付記を行わない。

7. 字体の指定

欧文字体の指定は、イタリックには-, ゴシックには~を赤色のアンダーラインで示す。ただし、その字体で原稿が作成されている場合には指定を省略することができる。

8. 完成原稿の提出

論文掲載可の通知を受け取った後、本文および図表を Word, Excel で作成したファイルは電子メールに添付して送付する。完成原稿を提出する際、図表を表作成ソフトで作成し、記憶媒体に保存する場合は、図表ごとに別ファイルを作成すること(ファイル名例: JA**-**表1) Windows で読み取れるようにフォーマットされた記憶媒体 (CD 等) にテキストファイル形式、または Word 文書形式ファイルおよび Excel ファイルに保存し、郵送で提出することもできる。

原稿の提出先は、編集委員会が著者に指示する。

(平成 23 年 10 月 19 日改正)